学校番号	２０１

令和８年度　国語科

教科	国語科	科目	言語文化	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「ちくま言語文化」（筑摩書房）						
副教材等	「核心を学ぶ　ベストスタイル古文単語 351」（尚文出版） 「読解をたいせつにする 体系古典文法 十訂版」（数研出版） 「読解をたいせつにする 体系古典文法 学習ノート 四訂版」（数研出版） 「サウスポインター　高校漢文」（数研出版） 「基礎 古典　大学入学共通テスト対策 新装二版」（尚文出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１．授業に取り組む姿勢をしっかり身に付けよう。
　・授業中に質問や発言をするなど積極的に参加する。
　・課題等の提出期限を守る。
２．自宅学習の習慣をしっかり身に付けよう。
　・予習復習をする。
　・疑問に思った点などを整理し、授業に生かす。
３．古典の基礎力をしっかり身に付けよう。
　・語彙、古典文法、漢文句法などの知識を身に付ける。
　・古典の文章の読解力を身に付ける。

２　学習の到達目標

（1）我が国の言語文化に対する理解を深めることを通し、生涯にわたる社会生活を豊かなものにする国語の多様な知識や技能を身に付けるとともに、積極的に表現する姿勢を涵養する。
（2）他者との関わりの中で、自己の思いや考えを整理・深化させ、他者の考えに深く共感したり、伝え合う能力を高めるとともに、論理的に考える力や豊かに想像する力を伸長させる。
（3）言葉を通して他者や社会に関わる意識を確立することで、言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、読書に親しむなかで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を新たにする。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	言葉の特徴やきまり、古典文法・漢文句法・古文常識・文学史・語彙など伝統的な言語文化に親しむための知識の習得に努める。その上で、身に付けた知識・技能を用いて、古典の文章や小説を積極的に解釈し、我が国の言語文化に対する理解を深める。	伝統的な言語文化を題材とし、「書くこと」「読むこと」の各領域において、与えられた文章を論理的にまとめ、目的、意図に応じて的確な文章で表現している。また、複数のテキストなどから正確に内容を読み取り、自分の考えを深め、発展させている。また、得られた知識や意見を総合的に考えた上で、自分の意見をまとめ、目的や場に合わせて効果的に表現できている。	国語で表現されたものを深く理解しようと努めるとともに、伝統的な言語文化などに対して関心を持ち、国語全般への探究心を持っている。また、思いや考えを深めたり、積極的に他者と関わったりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとするとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に用いようと努めている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
1学期	古文に親しみ、古文の世界を味わう [教材] 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」	a:歴史的仮名遣いを理解している。 b[読]:構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わうことができる。 c:古文に親しみを持ち、物語のおもしろさを理解しようとしている。	課題考査 定期考査 小テスト	課題考査 定期考査 課題	小テスト 課題
	古文に親しみ、古文の世界を味わう [教材] 『宇治拾遺物語』 「絵仏師良秀」	a:文語と口語の違い、品詞の種類、活用の概念、係り結びについて理解できる。 b[読]:古典文法、古文単語の意味を踏まえ、あらすじを自分の言葉で説明できる。 c:文法書、辞書、単語帳を積極的に活用し、的確に現代語訳しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	小テスト 課題
	漢文に親しみ、漢語の成り立ちを理解する [教材] 『唐詩紀事』 「推敲」	a:訓読点・書き下し文のきまりを理解している。 b[読]:漢文の構造を理解し、漢字・漢語の正しい意味・用法を理解できる。また、平易な短い文章を読み、漢文の内容を理解できる。 c:漢文に親しみを持ち、展開のおもしろさを理解しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	小テスト 課題
	文章を手掛かりに作者の思いを読み取る [教材] 『徒然草』 「つれづれなるままに」 「丹波に出雲といふ所あり」	a:助動詞を中心とする古典文法の働きを理解し、表現や構成に注意しながら内容を読み取ることができる。 b:［読］:当時の時代背景や価値観に触れながら、本文について意見交換を行い、現代にも通じる心情を見出すことができる。 c:音読を通して古文に親しみ、作者が伝えたいことを理解しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	小テスト 課題
	詩歌の自由律と定型を学び、表現力を高める。 [教材] 『竹』 『樹下の二人』 『20 億光年の孤独』	a:近現代詩を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 b:[書]:近現代詩を創作する際には、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 c:教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。	レポート 課題	レポート 課題	レポート 課題
2学期	物語に表れた心情を読み取る。 [教材] 『伊勢物語』 「芥川」 「東下り」	a:助動詞などの文法的知識を踏まえた本文読解を行い、和歌に至る物語の展開を理解している。 b[読]:協働作業のもと、物語の展開を把握し和歌に至る展開を理解できる。また、和歌で用いられている修辞技巧の巧みさに気づき、味わうことができる。 c:古文の物語を主体的に読解し、和歌に込められた心情を的確に理解しようとしている。また、他者の意見を汲み取り、自分の考えに生かそうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	小テスト 課題
	漢文に親しみ、漢語の成り立ちを理解する。 [教材] 『淮南子』 「塞翁馬」	a:比較的長い平易な漢文に慣れ、訓読の決まりについて理解している。 b:[読]:中国の史伝に特徴的な、簡潔な表現を味わい、そこから生まれた故事成語・成句などを理解する。 c:漢文の文学性を理解し、思考力や批判力を養おうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	小テスト 課題
	背景を考えながら作品の視点を解釈する。 [教材] 『土佐日記』 「門出」 「帰京」	a:助動詞・助詞を始めとする既習の古典文法・語彙の知識を用いて本文や和歌を解釈できる。 b[読]:文章の構成や展開、登場人物の行動や心情について意見交換を行い、より深い理解のもと、和歌につながる主題に気づくことができる。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	小テスト 課題

		c:平安女流文学へとつながる日記文学の心情描写や世界観を味わい、理解しようとしている。			
	描かれたことばと行動から人間像を読み取る。 [教材] 『十八史略』 「刺客荊軻」	a:既習の漢文句法や返り点の規則、語彙力などを用い、文章を解釈できる。 b[読]:当時の時代背景や価値観に触れながら、本文について意見交換を行い、我々にも通じる考え方や価値観を見出すことができる。 c:本文を独自に解釈したうえで、他者の意見を受け入れ、より的確な理解へ高めようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	小テスト 課題
	散文を通して思索を深め、表現の可能性を探る。 『檸檬』	a:登場人物の性格・行動を的確に読み取り、心理の移り変わりを理解できる。 b[読]:「檸檬」という作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 c:小説のおもしろさを味わい、さらに別の小説作品を読み進めようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	小テスト 課題
3学期	文章を手掛かりに作者の思いを読み取る。 [教材] 『枕草子』 「雪のいと高う降りたるを」	a:敬語の種類、本動詞・補助動詞の別、敬意の方向について、正しく理解している。 b[読]:王朝文学の代表的な作品を読み味わうことで、当時と現代の文化・人々の行動・価値観の相違や共通点を理解している。 c:既習の文法・語彙の知識を反映させ、主体的に読解しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	小テスト 課題
	唐詩を通して心情を伝える表現を身につける。 [教材] 漢詩 「鹿柴」 「涼州詞」 「江村」	a:漢詩の主な形式・構成、近体詩の規則について理解している。 b[書]:翻案詩を創作するなかで、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 c:漢詩を学ぶことを通し、日本と中国の事物や心情において類似点相違点のそれぞれを認識しつつ、理解を深めようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	小テスト 課題
	古典から近代に至ることばの過程をたどる。 『近代語の成立』	a:近代語の成立の経緯を学ぶことを通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 b[読]:近代語の成立を学ぶことを通して、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 c:教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。	レポート 課題	レポート 課題	レポート 課題
	古典から近代に至ることばの過程をたどる。 『若葉かげ』	a:「近代語の成立」「余が言文一致の由来」と読み比べて、時間の経過や文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。 b[読]:「若葉かげ」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 c:教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。	レポート 課題	レポート 課題	レポート 課題

4　学習の活動

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[b]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　　）時間

・書くこと　…　（　１０　）時間

・読むこと　…　（　６０　）時間